

はしがき (編著の趣旨)

このごろ經濟白書とか生活實態調査とかいうものが頻りと發表されていますが、これは、今までのように空威張りや口先ばかりでは、どうにもならない世の中となつてきました爲に、ありのままの姿、つまり眞相を卒直に訴えて國民大衆に協力を求めようとすると良心の現われと考へられます。しかしながら、白書とか實態調査に當るようなことは、元來、つねふだんから行つておくべき事柄なのでありまして、万事がセチ辛くなり、財政が逼迫し、人心が荒廢している今日のような時に、出し遅れの証文みたいに慌てふためいてみても、なかゝ、實効が期待されないのではないかと憂慮されます。というわけは私ども人間をこめて、一切の生きとし生けるものは、あるがまゝの環境の中でしか生活できなかつたのですし、現在ほもとより將來もまた、そうなのですから、今更らしく白書とか實態調査などといって、これみよがしの大見得をきるのは、怠け者の學生が試験勉強を得意がるようなもので、學問上の筋合からみると、必ずしも、合点がつきかねるものだと申さなければなりません。現に、私たちの先輩の中でも、遠く水戸黃門の漫遊記は別として、心ある人々は明治三十年代から今流行の實態調査(横山源之助著「日本の下層社會」をやつていたことは、世知に疎い私どもすら承知しております。(本支部編「現代心理學の主要文獻目録」第十三門(A)参照。それですから、白書とか實態調査の本來の使命は、社會の進運に處すべき自覺と反省の証しとして、それこそ文字通り國民大衆と相携えて現下の難局を打開してゆこうという、切實な公僕精神の現われであるべき筈であります。ともあれ、これらの白書類は、公けの面での一種の財産調べというよりは借金報告にほかならない次第ですから、ことさら仰々しく言擧げすべき筋合のものではないのであります。たゞ、しかし、從來の習慣に捉はれ易い私どもが、どうにもたらない現實の壁に直面して、どどのつまり、漸く本來の使命を自覺してきたことは喜ばしいことといわなければならぬでしょう。しかも、こんな當り前のことさえも、我が國では、とかく忘れられ勝であつたのですから、「善は急げ」というほどのことではないにしても、「ないよりはましだ」ということはいえるかと思ひます。

ところが、今度私どもが縣下の教育・司法・産業關係の方々と協同して心理學上の研究を始めようとするに當つても、經濟白書的な材料がないことに氣づきました。これはヒトゴトではないと思ひかえし、さつそく全幹事が手分けして最近の統計資料を整理し、私どもがこれから心理學上の應用を行う活場面である縣内の實情を知る據り所を求めた次第でした。

「石川縣民の生態」という題目は、いささかコケオドカシのようですが、しかし、これだけの資料でも教育・産業・司法・文化の各領域のおよその動きが、かなりの程度窺われるわけですから、あながちコケオドカシとはいえないでしょう。まして事實を重んずべき心理學はハツタリや空言は大禁物ですから、全幹事が相携えて極力正確な資料を求め合いました。幸い縣廳・金澤市役所・教組・家庭裁判所・石川労働基準局などの御厚意により、現在得られる最も正確な資料が入手できました。この機会に、一つには私どもの今後の歩みの基礎資料として、他の一つには縣内有志の方々にもお頒ちして御參考に供したいと存じた次第でした。幸い宇都宮書店および吉田次作商店の格別な御厚意によりまして、私どもの努力の結晶が陽の目をみる事が出来ましたことに對して厚く御禮申し上げます。この資料の蒐集に努力された當支部の幹事諸氏、とりわけ北脇雅男第一編・廣橋任・鈴木茂・渡邊止・前田薫第二編・永井馬朝・中本長吉・倉橋克第三編・竹田東洋雄・野崎勝治第四編・山本弘子(第五編)の各幹事諸氏の勞を記念したいと存じます。又、校正その他色々熱心な協力を與えてくれた松本とみ子・辻武子の兩氏にも厚く御禮を申し上げます。

終りに臨みまして、もう一度、このパンフレット編著の趣旨を要約致しておきます。

すでに述べましたように、このパンフレットは、私どもがこれから研究を進めてゆく上の足場となるもので、私どもはここから研究上の緒口ともなる生きた問題を發見し、もう一つのパンフレットである「現代心理學の主要文獻目録」(福音館發行)によつて、今迄の研究結果をたずね、兩者相まつて正しい心理學の實踐に進みたいと存じております。縣内各界各層の方々の善意ある御了解と、いやます御援助とを切にお願い申し上げます。

昭和二十四年七月十日

北陸心理學會石川新支部常任幹事長 松本金壽
同 調査部代表 澤田幸平